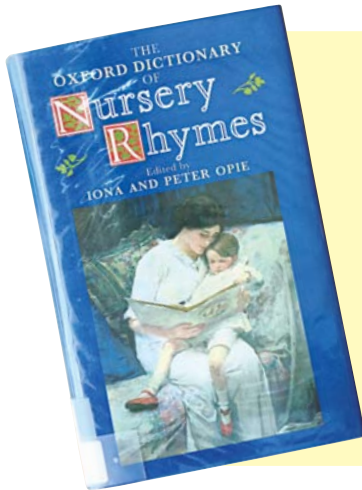


Nursery Rhyme in Perth

ナーサリーライムを知ろう

主に英国発のナーサリーライム。実は、日本で聞いたことのあるあの歌もナーサリーライムと呼ばれるものだったのです。そのナーサリーライムは、歴史的な背景が含まれていたり、韻が踏まれていたりするため、原文で楽しめることをおすすめします。



今回、本誌で紹介するナーサリーライムはここから引用しました。

The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes

出版: Oxford University Press
編集者: Iona and Peter Opie
初版発行: 1951年

このナーサリーライム辞典には、長い間伝えられてきた500編以上の伝統的なナーサリーライムが収録されており、それぞれが書籍に掲載され、世に出た年や起源、派生作品などの歴史が書かれている。

【筆者紹介】

Iona Archibald Opie氏 (1923年～) と Peter Opie氏 (1918年～1982年)

Iona Archibald Opie氏はヨーロッパの民間伝承や子どもの文化についての研究分野の権威であり、夫であるPeter Opie氏も児童文学のスペシャリストでした。Opie夫妻は自分たちの研究についての執筆活動を続け、「The Oxford Dictionary of Nursery Rhyme」の他にも「The Oxford Nursery Rhyme Book」や「The Classic Fairy Tales」など、子どもの文化に関する数々の本を出版してきました。

Baa, baa, black sheep

**Baa, baa, black sheep,
Have you any wool?
Yes, sir, yes, sir,
Three bags full;
One for the master,
And one for the dame,
And one for the little boy
Who lives down the lane.**

「Baa, baa, black sheep」の文献での登場は1744年
作者不明

英国で1275年から、バッグ(袋)単位で羊毛に輸出税が課されたという出来事について作られたナーサリーライムとされています。また、このナーサリーライムは日本でもよく知られている「きらきら星」と同じメロディーで歌われます。日本の詩人、北原白秋は自身のナーサリーライムの翻訳本『まざあ・ぐうず』にて、「Baa, baa, black sheep」は、頭がBで揃えられており、意味だけの訳では本当の翻訳にはならない、と最終的に題を「べああ、べああ、ブラック・シイプ」としました。